



【理念】

患者さまの立場に立ち、その方の終生にわたり健康を支え、質の高い診療と心地よい療養環境を提供します。



【基本方針】

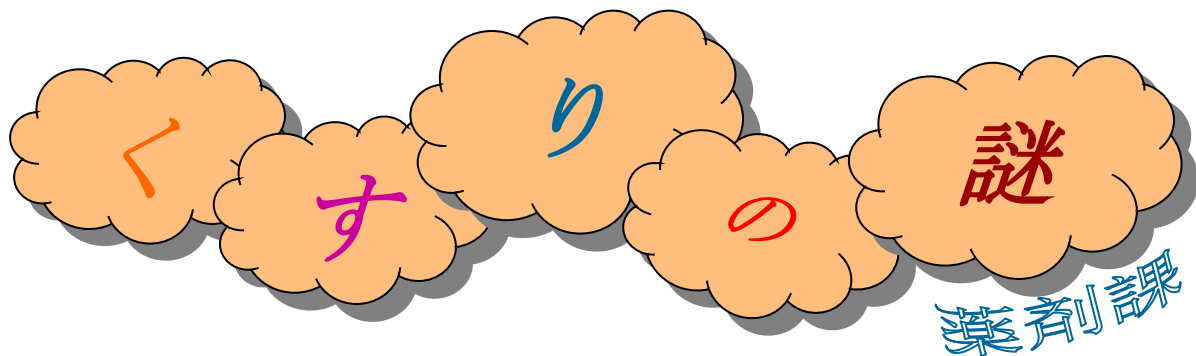
- ★ 患者様のニーズと負担を考慮し、適正で効率的な医療を提供します。
- ★ 医療スタッフによる十分な説明と患者さまの選択に基づく開かれた医療を進めます。
- ★ 地域に根ざし、患者さまに終生かかわり合いを持つ医療を目指します。
- ★ 患者さま、職員にとって「心地よい環境」の向上に努めます。



福寿草

黄金色に輝く福寿草は正月を飾るにふさわしい花である。幸福と長寿を頂く名前も、正月にふさわしい。略式の正月となった昨今、福寿草を飾るお宅は少ない。温室育ちでなく自然に咲く福寿草は、元日ではなく、二月末に咲くのである。寒い最中、元気良く黄金色の花が咲くのは、春近きを思わせ、心弾む。子供の頃のラジオ歌謡か何かに、“春と娘と福寿草(?)”というフレーズの入った歌がはやったことがあった。これまで薬草となる花をいくつか紹介したが、福寿草は毒草とされる。アドニンという有毒物質を含んでいるそうである。

学名はAdonis amurensisとされている。アドニスとはアフロディテ(ヴィーナス)に愛された美青年である。しかし、ギリシャ神話で福寿草の花にまつわる話を探し出すことはできなかった。原産地がシベリア、朝鮮北部とされているので、アムール(川)地方のアドニスみたいにきれいな花ということであろう。



インフルエンザにご注意を！

インフルエンザが流行しやすい時期になってきました。
 この病気は、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。
 1～3日の潜伏期を経て、38℃以上の発熱・頭痛・関節や筋肉の痛み・倦怠感などの症状が、急速に現れるのが特徴です。
 お子様やご高齢の方では、まれに重症化してしまうこともあります。
 インフルエンザの流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がっていきます。



◆◆ 予 防 ◆◆

インフルエンザワクチンの皮下接種が、主にリスクの高い人に対して行われています。
 インフルエンザウイルスは口や鼻から身体に入り、体内に入ったウイルスは細胞に侵入して増殖します。この状態を「感染」といいますが、ワクチンにはこれを完全に抑える働きはありません。つまり、

インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありません。

ウイルスが増えると、数日の潜伏期間を経て、発熱などのインフルエンザの症状が起こります。この状態を「発症」といいます。ワクチンには、この発症を抑える効果がある程度あります。発症後、多くの方は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方もいます。これをインフルエンザの「重症化」といいます。

ワクチンの最も大きな効果は、この重症化を予防することです。

ただし、この効果も100%ではないことにご留意ください。

ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した2週間後～数ヶ月程度までと考えられています。日本では1月～2月に流行のピークを迎えるため、12月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいでしょう。

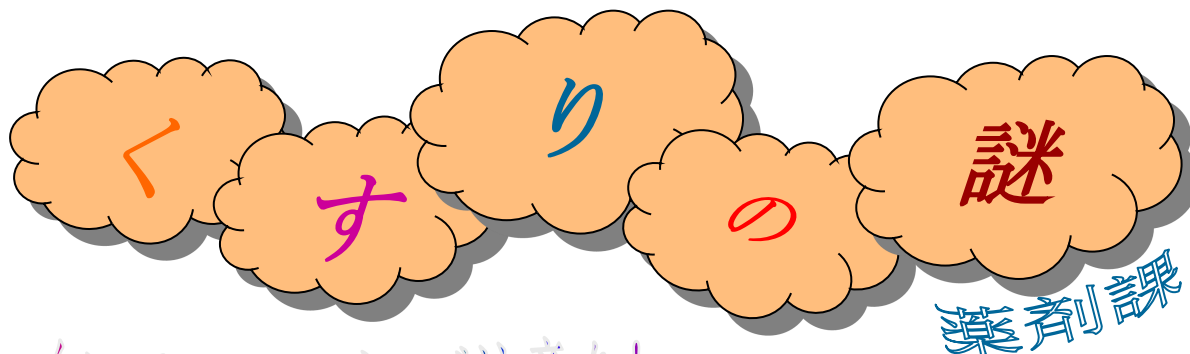
>>> ワクチン以外にも、以下のような大切なことがあります。

- ・手洗い、うがい
- ・水分補給
- ・睡眠を十分にとること
- ・マスクの着用
- ・人混みへの外出には気をつけること



と





インフルエンザにご注意を!

◆◆ 検査 ◆◆

インフルエンザか否かは、抗原検出キットで検査することで判定できます。
綿棒を鼻の奥やのどの奥に入れて検体を採取し、判定結果は30分以内に出ます。
A・B型の判別も可能です。

◆◆ 治療 ◆◆

インフルエンザに対する抗ウイルス薬としては、「タミフル」のような内服薬、「リレンザ」「イナビル」といった吸入薬、「ラピアクタ」という注射薬があります。
ただし、その効果は症状が出始めてからの時間や病状により異なるので、使用する・しないは医師の判断となります。
薬を適切な時期（発症から48時間以内）に開始すると、発熱期間が短縮され、鼻やのどからのウイルス排出量も減少します。
症状が出てから48時間以上経ってしまった場合は、十分な効果が期待できません。
高熱に対しては、「カロナール」などの解熱薬を使います。

以前、「インフルエンザの薬で異常行動を起こすのでは？」と言われたことがありますが、正しくは、インフルエンザにかかること自体に異常行動のリスクがあります。
お子様では、インフルエンザの罹患により、急に走り出す・部屋から飛び出そうとする・ウロウロと歩き回る等の異常行動を起こすおそれがあります。
少なくとも発症から2日間は、お子様が一人にならないよう配慮しましょう。

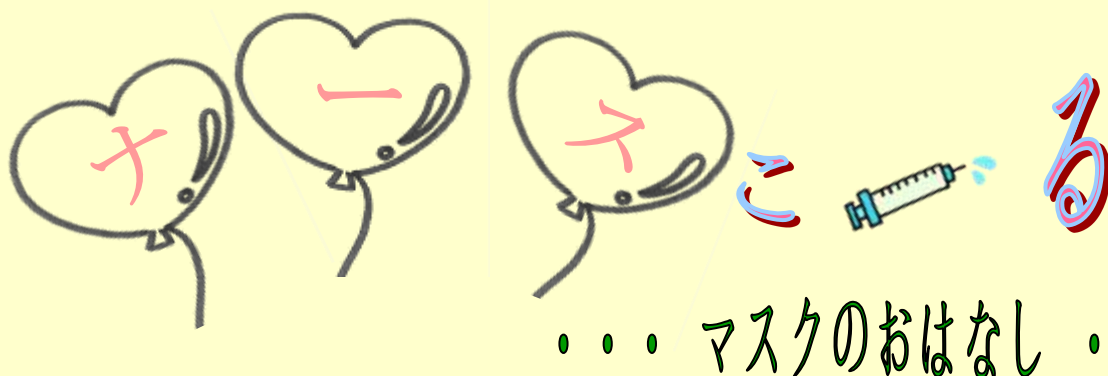
一般的に、インフルエンザ発症前日～発症後数日間は、鼻やのどからウイルスを排出すると言われています。ウイルスを排出している間は外出を控える必要があります。

現在、学校保健安全法では、

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日
（幼児にあっては3日）を経過するまで」

をインフルエンザによる出席停止期間とされています。
（ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めた場合はこの限りではありません）





まだまだ寒い季節です。風邪をひいていませんか??

風邪と言え、**マスク!!**

コンビニでも、ドラッグストアでも手軽に購入できます。
しかしマスクをしていても、残念な使い方をよく見かけます。
そこで今回はマスクのお話をします。

マスクのタイプにもいろいろありますが、今回はプリーツ式のマスクです。



◇◇ 正しい使い方 ◇◇

- 自分の顔の大きさのマスクを選ぶ。(成人男性用・女性用・子供用などがある)
- マスクには、上下・裏表がある。
- マスクのひだが下向き、ノーズクリップがある方が上で、表向き
- 鼻の形に合わせてノーズクリップを曲げる。
- プリーツを広げ、マスクを立体型にする。
- ゴムを耳にかけ、マスクであごまで覆い、ほほを包み込む
- 空気の漏れがなるべく少ないようにゴムとクリップで調整する。
- 使用したマスクの表面は汚れているので触らない。
- 外すときは耳のゴムを持って外し、マスクの前面は汚れているので触らない。
- 交換は、目立った汚れがなくても食事の時に新しいマスクと交換する。



◇◇ マスクの効果 ◇◇

- のどの乾燥を防ぎ湿度が保てる。
- 菌の侵入を予防する(風邪をもらわない)
- 菌の吐き出しを防ぐ(風邪をうつさない)
- 咳のエチケット(ツバキを人に飛ばさないようにする)
- 口元を隠す



マスクをしていると、メガネが曇ることがあります。

顔とマスクの隙間から吐く暖かい息がメガネを曇らせています。

マスクの中にカーゼやハンカチを挟むと防げますが、マスクの上のクリップの部分の内側に折り込んでみるのもお勧めです。

マスクをしていても、空気に乗って病原菌が隙間から入り込むので完全な効果は期待できませんが、正しい使い方できかなり防げます。

正しいつけ方で風邪をひかないようにしましょう。

呼吸サポートチーム(RST)

呼吸サポートチーム(RST)では呼吸器の患者様やそのご家族に向けて年2回呼吸器患者教室を開催しています



お食事の話



運動会



看護



お薬の話



次回は3月に開催予定です。
楽しい企画を予定しています。ご期待下さい!

クリスマスコンサート 2016

12月21日(水)、当院の恒例行事であるクリスマスコンサートが開催されました。奏者には、くらしき作陽大学学生のクラリネット四重奏の方々をお招きし、クリスマスメドレー・ジブリの名曲・民謡など多数の曲を演奏して頂きました。途中、サンタやトナカイの演出もあり、会場は大いに盛り上がりました。

また、クリスマスバザーも開催されコンサート前の会場を賑わせました。日用生活用品やおしゃれな雑貨が陳列され、会場にはいつのまにか長蛇の列ができていました。

コンサートとバザーを終えたあとには、「ありがとう！」「今年も楽しかったです。」というお声を頂きました。今後とも、患者様のため、また地域に愛される病院を目指して、さまざまな活動を行っていきます。

企画・レクリエーション委員会

